

序章 研究目的と方法

1. 研究目的

今日、公共職業訓練における中途退校は、職業訓練を担当する者にとって、頭の痛い問題の一つである。

本研究の目的は、広義の生活指導の立場より、ある特定の総高訓における中途退校の実態、および在校生の生活意識の実態を分析して、その問題点を検出し、中退防止のあり方、さらには訓練生に対する具体的な指導方法を提案することである。

つまり、

- 1) 中退の数量的実態と訓練環境との関連を把握すること。
- 2) 中退の真の原因を中退訓練生のフォロー・アップなどを通して追求し、訓練校における中退を類型化すること。
- 3) 中退を心理検査によって予測する方法を検討すること。
- 4) 広く適応指導の方法としてのカウンセリングの職業訓練における位置づけを検討すること。
- 5) 中退実態の討議を通じて、中退に対する具体的な指導の考え方を検討すること。

さらに、これらの目的を達する過程で、高学歴化社会の中で、公共養成訓練がどのような機能を果しうるかを中卒者の中に点在する高卒者の声を主にして、検討することも併せて目的とする。

2. 方法

○ 調査対象

千葉総合高等職業訓練校在籍者全員である。設置科は電気科、機械科、第二機械科、自動車整備科、板金科、溶接科、木工科、塗装科、印刷科（以上2年訓練課程）、ブロック建築科、タイル施工科、自動車整備科第二类（以上1年訓練課程）である。

○ 中退経過と理由の聴取

中退者について、中退経過とその理由は、各科担当者がなるべく詳細に聴取し、記録することにした。（*技術課職員による面接聴取も予定していたが 実際には実施できなかった。）

○ 調査期間

昭和47年4月から48年3月を準備段階として、昭和48年度を主調査段階とし、昭和49年度を総まとめ段階とした。

○ 各種検査、調査の実施

昭和47年度は4月末、昭和48年度、昭和49年度は入校時のオリエンテーションに組み入れ

て、次の検査を実施した。

知能検査（田中B式）、労働省編職業適性検査（第二）、藤原式職業興味検査、矢田部ゴルフロード性格検査を用いている。

「訓練生生活意識調査」（第1部、第2部）、ならびに「生活興味調査」は昭和48年12月に実施した。対象は1年生のみである。

○ 在校訓練生との面接

「相談室の必要性について」の訓練生面接を電気科4名、板金、木工科4名に対して実施。

○ 中退者に対するフォローアップ調査

昭和49年12月、昭和49年度から調査時点までに中退した訓練生に対して、中退理由に関する郵送法による調査を実施した。調査対象数は170件である。

さらに、昭和50年2月から3月にかけて、中退者に対する面接調査を実施した。

○ 研究の進め方

本研究の動機からして、単に中退者について調査すればよいというのではなく、校全体の中退研究に対するムーブメントを高め、訓練生理解の手法を習得し、生活指導を主にする現実の指導になるべく早く直接、間接的に役立つように研究を進めることにした。

千葉総訓技術課が研究推進のセンターとなって、研究計画、実施し、調査結果の報告は科代表者会議に逐次連絡をした。（附1）

さらに、本報告書の作成にあたっては、戸田が下書きをおこない、表記メンバーによって最終討議をおこなって原稿とした。